

明清版画の再創作

現代版画技法を通した「かわいい」についての表現研究

芸術研究科 造形表現専攻
デザイン領域 博士前期課程
2025年3月修了

銭 昊煜

主査 三枝 孝司　副査 田 承麟　金 尾勁

研究背景

明清時代は中国版画芸術発展の黄金時代であり、この時期の版画作品は数量が豊富で、技法、題材、スタイルにおいて高い芸術レベルに達していた。版画は書籍挿絵、年画、宗教画像などで広く用いられ、流暢な線、厳格な構図、精巧な細部表現などにより、中国伝統芸術の高度な成果を象徴している。また、これらの作品は歴史や文化の重要な担体であり、古代中国社会、経済、文化、日常生活を研究する上で重要な資料でもある。しかし、時間とともに、現代社会の審美観や芸術表現形式は大きく変化した。現代版画は技術や材料、スタイルにおいて革新が進み、多元化と個性化が特徴となっている。

研究目的

本論文は、現代版画技術を用いて明清版画の再創作を行い、「かわいい」の現代的な美的要素を融合させた表現を探ることを目的とする。具体的には、伝統版画芸術と現代技術および審美観を結合させ、伝統文化の内包を保ちながら新しい生命力を与えることを目指す。また、現代的な美的要素を活用し、伝統版画に新たな表現を見出し、現在の芸術創作の課題に応えるための創造的アプローチを模索する。

研究概要



「女将」



「晴着」



「月見」



「蓮華」



「窺見」

成果・まとめ

本研究は伝統版画の表現や題材を基に現代版画作品として再創作することにより、研究及び創作活動において理論的根拠を提供するだけでなく、現代版画芸術の創作における潜在力と商業価値を示すことができた。伝統文化と現代審美を結合することを通じて、論文では現代芸術創作と文化伝播に新しい構想を提供し、伝統芸術の現代における伝承と革新にも有益であることを示すことができた。



指導教員コメント

中国の明清時代の伝統的な版画芸術は日本の版画芸術に影響を与え、以後、世界的に有名になった日本特有の浮世絵版画の創造の基となっている。その明清版画の中でも「西廂図」を題材にし、版表現やテーマの特徴を研究・分析したことにより、伝統的な表現を踏まえた上で現代的な「かわいい」表現要素を結合することができ、独自性のある研究と作品制作ができたと感じている。特に作品は学会や展覧会で発表し、受賞する等、外部でも高く評価されている。今後も更なる研究制作、活躍に期待したい。

三枝 孝司